

小學修身鑑補 卷十

大日本教育會總發行		
第三室		
三	五	
函	架	號
冊	號	冊



不認定等

K120.1	
1	
10	

K120.1

1

10

吉田利行編輯

版權所有

小學修身鑑補

魁玉堂藏版

小學修身鑑補卷十

吉田利行編

第一 友愛

一才博ハ人倫ノ大要子孫ノ
 一命ニシテ是身ノ立ツルノ
 本道ノ行ノ初メ學者ノ當
 ナク用ノベキ所ナリ初學
 後漢ノ張禮張孝初一シテ
 一友ニ共ニ老母ノ奉養セ

一孝第ニ身ヲ立ツ

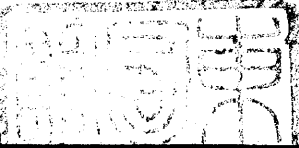
ルノ本孝第ナラズ

レ他ノ善行良才

小學修身鑑補卷十

第一友愛

吉田利行編



張礼張字
孝慕跡ヲ
感スル事

先務ニシテ是身ヲ立ツルノ
本道ヲ行フノ初メ學者ノ當
ニカヲ用フベキ所ナリ初學
知要
後漢ノ張禮張孝幼ニシテ
父ヲ喪ヒ共ニ老母ヲ奉養セ

一 孝第八身ヲ立ツ
ルノ本孝第十ナラザ
レバ他ノ善行良才

リ時凶年ニ會ス禮菜ヲ拾フ
 テ歸ル路ニ賊ニ遇フ賊將ニ
 之ヲ殺サントス禮叩頭シテ
 曰ク家中ノ老母未ダ朝食セ
 ズ兒其飢ヲ見ルニ忍ビス故ニ今菜ヲ拾テ歸ルナリ願ク
 バ少時吾命ヲ仮リ老母ニ之ヲ共給シテ即チ來リテ死ニ
 就ント賊遂ニ之ヲ放チテ飯ヲシム張孝藩ヲ隔テ、之ヲ
 聞キ自ラ賊ノ所ニ抵テ曰ク嚮者飯ヲ美ヲ作ル者ハ吾兄
 ナリ母ヲ養フニ年若シテ其體軀羸疲セリ弟ハ肥テ肉多
 シ願ハ以テ兄ノ命ニ代ラント禮又至テ曰ク禮本殺サル
 、ヲ許セリ何ゾ弟ヲ殺スヲ得ント賊二人ノ孝慈ニ感ジ
 殺サズシテ去レリ

アリト雖モ觀ルニ
 足ラス 初學知要

テ御里ニ稱セラレズ皇天ニ祐ケラレサル者アランヤ其
 不孝不友ノ者ハ是ニ反ス何ゾ之ヲ勉メザル世範
 ① 孝悌ノ至ハ神明ニ通ジ四海ニ光ル何ゾ孝子悌弟ニシ
 ② 門内ニ在テハ門内ノ事ニ勉メ任ジ宗族ニ在テハ宗族
 ノ事ニ勉メ任ジ輒チ彼此ヲ較量シ我任ヲ推シ卸スノ私
 心アル可ラズ較量スルノ一念ヲ充ツルルルハ勢一錢尺帛
 モ兄弟叔姪互ニ相通セズ又
 必父母ノ生ヲ養ヒ死ヲ送ル
 毛願ミザルニ至ラン門内此
 ノ如シ况ンヤ宗族ヲヤ即チ
 父母ハ此ノ子ナキニ若カズ
 祖宗ハ此子孫ハキニ若カズ

ハ自ラ任ジ勞ヲ父
 ニ背ク可ラス勞事
 子弟ハ父兄ノ言

王密弟ノ死ヲ子ニ代ヘント請フ事

唐ノ王密弟儁子元直ト涼州ノ路中ニ困シム密即チ儁ト元直ヲ途ニ留テ食ヲ民間ニ乞フ還ルニ及テ儁賊ニ掠メラル元直ハ逃レ免カル密即チ元直ヲ將キテ賊ヲ追ヒ叩頭シテ哀ヲ求メテ曰ク人情自ラ其子ヲ愛セザルハナシ然モ此ノ弟未ダ生レザルニ家君長逝シ遺孤ヲ長ジテ以テ今ニ至レリ請フ我子元直ヲ以テ弟ニ易ヘン一ト賊相謂テ曰ク子ヲ以テ弟ニ易ルハ義ノ大ナルナリト二人並ニ難ニ與カラザルヲ得タリ後密没スルニ及ヒ儁勺水口ニ入ラザルモノ七日喪ヲ服スル期年ト雖モ心喪スル一六載

兄ニ分ツ可ラズ

父兄訓

ヘレンワルコル信義妹ヲ助ケル語

昔英國ノ一農婦ヘレンワルコルニ自ラ勞作シ衣食ヲ給シタリ性質貞良ニシテ且敬天勸善ノ行ヲ修メタリ父母ニ代テ女弟ヲ教育ヒシガ曾テ一罪ヲ犯セリ此罪科他人ニ知ルモノアリト證スレバ死ヲ免ス國法ナリヘレンワルコル官吏ニ訴ヘ之ヲ知ルト云ヘバ女弟ノ死ヲ救フベケレ氏知ラザルヲ欺キ知ルト云バ不正ナリト思ヒ知ラズト答ヘケレバ女弟遂ニ死刑ニ

親類一門多シト

雖モ父母ヲ去テハ兄弟ホド親シキハナシ如何ゾ疎カニスベケンヤ

大和中庸

處スベキニ決シタリ己ニシテ「ヘレンワルコル」思ヘラク我直ヲ好ミテ女弟ノ命ヲ救ハザルハ姉妹ノ愛欠クルナリト遂ニ三百里ノ遠キニ歩シ倫敦ニ至リ實情ヲ陳ベテ女王ニ請ヒケレバ王其信義ヲ感ジテ妹ノ死刑ヲ赦サレタリ後ニ天下有名ノ人「ブルドルスコット」ヘレンワルコルノ誠信ト妹ノ死ヲ救ヒタル盡カテ嘆稱シイロングレ「ノ寺ニ於テ」ヘレンワルコルノ墓ニ牌ヲ立テ其信義ナル品行ヲ頌表セリ

③今ノ人多クハ兄弟ノ愛ヲ知ラズ且閭閻ノ小人ノ如キモ一食ヲ得レバ必先ツ以テ父母ニ食セシム又何ノ故ゾヤ父母ノ口ハ己ノ口ヨリ重キヲ以テナリ一衣ヲ得レバ必先ツ以テ父母ニ衣ス夫何ノ故ゾヤ父母ノ體ハ己ガ體

ヨリ重キヲ以テナリ犬馬ニ至テモ亦然リ獨父母ノ子ヲ愛スルハ却テ己ノ子ヨリモ輕クシ甚シキハ仇敵ノ若クナルニ至ル惑ヘルノ甚シキナリ小章

④孝悌モトニ理ナシ兄弟ノ生ルヤ先後アリト雖モ其原ハ是一身ナリ習是編

④兄弟ハ形ヲ分チ氣ヲ連ヌルノ人ナリ其幼ノキニ方リテヤ食ハ則棄ヲ同クシ衣ハ則傳ヘ服ス學ブニハ則業ヲ連子遊ベハ則方ヲ共ニス顏子家訓

④小左衛門清右衛門兄弟ハ岩代國耶麻郡古來郷上林村

④兄弟ノ恩ハ形ヲ異ニシテ氣ヲ同クスレバ死生苦樂適

小左工門
清右工門
友愛、話

ノ農民ナリ兄ハ年七十一ニシテ男子二人孫四人アリ弟ハ年五十九ニシテ男子一人孫三人アリ其外親族都テ十七人一家ニ住シテ長幼親愛ノ情厚ク少シモ及目ノ心ナシ或時兄弟相謀リテ曰ク我等存命ノ内ハ一家ニ任スルモ和睦ノ道ヲ失ハザルベシ然ルニ死後子孫ニ我心ノ如クナラザルモノ生ズル時ハ介家ヲ企ツル事アラシク今ヨリ其備ヘテ爲シ置クノ勝レルニ如カズトテ別ニ一家ヲ造リ中ニ垣シテ兄弟鄰リ住ス既ニシテ互ニ其隔タルヲ悲ミ又元ノ如ク一家ニ住ス弟ハ子孫ヲ伴ヒテ耕耘ニ出レバ兄ハ洗足ノ湯食事等ヲ調ヘ兄弟カヲ合シテ互ニ其

ク所トシテ相須ク
ガルー無シ 學的

勞苦ヲ助ク耕作ノ暇ニ紙漉ヲ業トシ市ニ出デ是ヲ販ヒ若シ珍ラシキ物ヲ見レバ贖ヒ歸リテ兄ニ與フ其親睦慈愛人ヲシテ感ゼシム故ニ村中鄰里ニ於テ水論或ハ境界論ナドアル片兄弟出デ扱フ時ハ其爭論忽チ止ム元禄二年ノ秋國主兄弟ニ米若干ヲ賜リテ其德行ヲ賞セラレタリ

⑤ 世間ノ人ノ習ヒ我弟ニハ我能ク弟ノ道ヲナシ事ヘヨト求ムレ氏我又我兄ニ事フル道ヲ知ラズ成リ行クナリ我能ク兄ニ事フル道ヲ盡クシテコソ又我弟モ我ニ能ク

⑤ 兄ハ弟ヲ愛シ言
フ所行フ所弟ノ手
本トナルヤウ睦マ

事フベケレ我身ニ道ヲ行ハ
バシテ妄ニ弟ヲ責メ教フル
一君子ノ道ニアルヘカラス

大和中庸

ジク教フベシ

日新館童子訓

陳世恩弟
ヲ教導ス
ル事

〔五〕支那ノ夏邑ニ陳世恩ト云フ者兄弟三人アリ其季弟ハ
出遊ヲ好ミ毎晨出遊シテ暮ニ及ビテ歸リ曾テ學事ニ心
ヲ用ヒザレバ世恩彙々戒ムレドモ之ヲ改メズ世恩謂ヘ
ラク妄ニ規戒スレバ恐ラクハ友愛ヲ傷ラント乃夜毎ニ
自ラ外戸ヲ守リ弟ノ歸ルヲ俟チテ手ヅカラハシテ鑿シ其
寒暖飢飽ヲ問ヒテ愛憐ノ情自ラ言續ニ著ハル此ノ如ク
スル一數夜ニシテ弟モ深ク其誠ニ感ジ遂ニ其出遊ヲ止
メタリト云フ世恩ノ如キハ能ク其弟ヲ保護セルモノト

云フベシ

〔六〕他人ニテモ老イタルヲ敬フハ道理ノ當然ナリマシテ

親ノ身ヲ分チテ我ニ先キダ
チテ生レタル兄ヲ敬ヒ從フ
一勿論ノ理ナリ翁問答

〔六〕弟ノ兄ニ事フル恭ヲ致シ
禮ヲ盡ス一能ハザレバ則必
長上ニ遜ナル一能ハザルナ
リ者心雜言

〔六〕會津東里村ノ安兵衛ト云
ノ者兄ニ事ヘテ敬順ナリ兄
ハ久ク病ニ罹リ何事モ其身

安兵衛兄
ヲ大切ニ
スル事

〔六〕弟タル者ハ起居

出入衣服飲食何ニ

ヨラズ兄ヲ先キニ

シテ我身ヲ後ニス

ベシ 日新館童子訓

ニ叶ハザリシモ安兵衛ハ母没セシ後親ノ如ク事ヘテ聊
モ其意一違フナシ曾テ凶年ニ遭ヒ五穀實ラス人々衣
服ハオロカ食物モ難義セシ折安兵衛ハ益々家業ニ勉強
シ身ニハ破レタル衣ヲ纏ヒ兄ニハ新ナル衣服ヲ着セテ
更ニ凶年ノ苦ミヲ知ラシメザリシ

⑦兄ノ貴ブ所ノ者ハ愛ナリ弟ノ貴ブ所ノ者ハ恭ナリ朱子

⑦朋友ハ是後來ノ兄弟ナリ
兄弟ハ是天然ノ朋友ナリ少

ニシテ同ク遊ビ長ジテハ同
ク學ブ若シ一心一徳ノ兄弟
ヲ得バ何ノ禁カ之ニ如カン
陸世儀

⑦兄ハ其弟ヲ愛シ
弟ハ其兄ヲ敬シ互
ニ怨ムルコト勿レ怒

其意ニ違
諸弟ニ遺
室ヲ分配
スル事

⑦北條泰時ハ義時ノ子ナリ
父ニ愛セラレ、薄ケレバ

ルコト勿レ 童子訓

怨色ヲ顯サズ彌々孝ヲ盡セリ義時卒スルニ及ビ泰時善
ク父ノ心ヲ以テ心トシ諸弟ヲ愛スルコト父在リシト、如
クセリ既ニシテ亡父ノ米地遺物等ヲ領テ取ルニ至リ諸
弟ノ分ハ甚ダ多ク自ラ取ル所ハ至ツテ少ナカリケレバ
尼公驚キテ曰ク汝嫡長ヲ以テ受ル所小弟ト均シキハ何
ゾト泰時曰ク我不才ナリト雖モ幸ニ先人ノ跡ヲ継ギテ
政事ヲ預リ聞クコトヲ得タリ米地遺物等ハ少シモ望ム所
ニアラズ只諸弟妹相和睦スレバ足レリト諸弟ヲ集メテ
父ノ遺領ヲ分配シテ曰ク是レ皆尼公ノ命ナリト始ヨリ
聊モ其事ニ預リ知ラザルモノ、如シ諸弟大ニ悦バ列國

諸候是ヲ聞キ皆相勤メテ敦睦、行ヲ為セリ

⑧人ノ至親ナルハ父子兄弟ニ過ギタルハ莫シ而ルニ父

子兄弟和セザル者アルハ父

子或ハ善ヲ責ムルニ因リ兄

弟或ハ財ヲ争フニ因ルナリ

世範

⑧兄弟睦マジカラザレバ子

姪愛セズ子姪愛セザレバ群

從疎薄ナリ群從疎薄ナレバ

僮僕讐敵トナルモシ外侮至

ラハ誰リ之ヲ禦カンヤ世堂

⑧兄弟牖ニ関ケル外ハ其將

⑧常ニ大小トナク

カラ合セ兄弟睦マ

シク父母ノ心ヲ歡

バシムルヲ務トス

ベシ日新館童子訓

ヲ禦ク 詩經

毛利元就
兄弟和合
ノ理ヲ諭

⑧毛利元就アルトキ其子ヲ呼ビ集メ其子ノ數ホト箭ノ

持ト出シテ繩ニテ之ヲ束子カライレテ之ヲ折ラシムル

モアマタノ箭ヲ一ニ集メタル者ナレバタヤスク折レザ

ル事ヲ示シ又夕其束子タル中ヨリ箭ヲ一枝ヅ、抜キ取

リシバシノ間ニ殘ラズ之ヲ折リ盡クシテ其子ニ向ヒ汝

子互ニ親ミ互ニ睦マシヤレバ束子タル矢折レ難キが如

シ若シ相叛キ相離レバ一枝ノ矢ノ折レ易キが如シト云

第二 反省

①上帝常アラズ善ヲ作セバ之ニ百祥ヲ降シ不善ヲ作セバ之ニ百殃ヲ降ス書經

①常ニ天道ヲ恐レ敬ヒテ慢ラズ假リニモ天道ニ背キ無道ノ事ヲ為ス可ラズ初學訓

①皇天親之惟德
是輔之書經

①罪ヲ天ニ獲レバ禱ル所ナキナリ論著

②幼キ時ヨリ善ヲ好ンテ行ヒ惡ヲ嫌ヒテ去ル此志專一ナルベシ童子訓

③北山道長ハ肥前國長崎ノ人ナリ醫業ヲ以テ海内ニ名アリ其人ニ接スル情ヲ隱ス一ナシ言ヲ出セバ肺肝ヲ洞

②好テ善ヲ行者
ハ天之ヲ助クルニ

北山道長
清原ナル事

見ス其大坂ニ居テ治療ヲ為スヤ富貴ノ人ニハ多ク謝金ヲ受ケス貧賤ノ者ニハ施藥救療シ又賑ハスニ米錢ヲ以テス故ニ医事大ニ行ハルト雖モ家或ハ空匱ナリ此ノ時ニ當リ入來テ債ヲ促セバ則高声ニ叱シテ曰ク近日病人皆貧窮ナリ一錢モ得ル一ナシト曾テ尾張候ノ招キニ應

福ヲ以テス三國志

シ往テ其病ヲ療ス歸テ門ニ署シテ曰ク今ヤ尾張候ノ病ヲ療シ大ニ賚ヲ得テ返レリ債主咸來テ收フラレヨト其真率ナル一概子此ノ如シ

③善ヲ為ス人ハ獨親戚之ヲ愛スルヲミニ非ズ朋友鄉黨之ヲ敬ス鬼神モ陰カニ之ヲ

③禍福門ナシ惟人ノ招ク所ナリ左傳

相ク惡ヲ爲ス人ハ其親戚之ヲ惡ムノミニ非ズ朋友鄉黨之ヲ怨ム鬼神モ亦陰力ニ之ヲ殛ス王陽明

④人ノ惡ヲ言フハ己ヲ美ニスル所以ニ非ズ人ノ枉レルヲ言フハ己ヲ正ス所以ニ非ズ故ニ君子ハ其惡ヲ攻メテ人ノ惡ヲ攻ムルナシ家語
⑤我厚キヲ以テ人ヲ待ツニ人薄キヲ以テ我ヲ待ツハ彼ノ薄キニ非ズ我厚キノ未ダ

④己ヲ知ラント欲セバ他人ヲミヨ他
人ヲ知ラント欲セバ自身ニ問ヘシルレル
⑤人ノ善ヲ爲スヲ見レバ我必之ヲ愛

10 頁 欠

シ幾ント死ニ至ラントス夫
 ハ復妻ノ私アルカト疑ヒテ
 辱罵シテ休マズ妻モ亦痛ク
 憤怒セシヲ人ノ救解ニ頼テ
 僅ニ罷ムヲ得タリ倫既ニ
 尋子至テ錮ヲ出シテ與ヘケ
 レハ舉家皆感謝シテ婢ノ冤
 ハ解ケタリ而シテ倫直キニ
 急行シテ京ニ至リ試場ニ臨
 ミ中リテ狀元ニ及第セリト
 ザ

⑥學ブニハ須ク己ヲ反省ス

⑥人我ニ從ハズ我
 ニ背カバ我過ヲ責
 メテ人ヲ宥ム可ラ
 ス人ニ求メズシテ
 我身求ムヘシ

大和俗訓

ベシ徒ニ人ヲ責ムルト勿レ能ク己ヲ省ミレバ方ニ許多ノ盡ヤル處アルヲ見シ莫ク人ヲ責ムルニ暇アリヤ

王陽明

六此ニ人アリ其我ヲ待ツニ横逆ヲ以テスルキハ則君子ハ必自反スルナリ我必不仁ナラン必無禮ナラン此ノ物莫ク宜ク至ルベキヤト孟子
七人ヲ責ムル者ハ交ハリヲ全クセズ自ラ恕スル者ハ過

七 下ニ命ズル所ハ
自ラ之ニ先ダツヲ
善シトス身ヲ以テ
教アレバ言語ヲ勞
セズシテ下能ク從
フ 武將感狀記

ヲ改メズ 首心錄

七 曾子曰ク吾日ニ吾身ヲ三省ス人ノ爲メニ謀テ忠ナラザルカ朋友ト交ハリテ信ナラザルカ傳ヘテ習ハザルカ

論語

第三 積善

一 徳善ノ勢力ハ身體ノ勢力ニ十倍ス 拿曲翁

一 學者賢ヲ親シミ善ヲ樂ムハ是第一ノ事ナリ少年ニシテ剛毅正直老成篤實ノ人ヲ見テ能ク之ヲ愛敬スルハ其

一 幼キ時ヨリ善ヲ好ミテ行ヒ惡ヲ嫌ヒテ去ル此ノ志專

人必賢ナラン若シ之ヲ疎遠ニスルハ其人必不肖ナリ

張履祥

一ナルベシ童子訓

或人蕃山ニ馬夫ノ信義ヲ物語スル事

一熊澤蕃山歳十六ニシテ備前候ニ仕ヘ後京都ニ赴キテ良師ヲ求ムレモ未ダ其人ヲ得ズ或日同宿ノ人蕃山ニ語ケテ曰ク向キニ余主人ノ金二百兩ヲ懐ニシテ遠ク行キシガ途ニシテ驛馬ニ乗り金囊ヲ鞆ニ繫ギ日暮之ヲ收ムルヲ志レ旅亭ニ投ジ困頓シテ枕ニ就キ半夜ニオヨンテ始メテ金ヲ遺忘セシヲ覺リ千思萬慮スレドモ之ヲ求ムルニ術ナク死ヲ以テ罪ヲ主人ニ謝セン一決シ戚然トシテ薄命ヲ歎シタル時剥啄ノ聲甚ク急ナリ戸ヲ開ケハ則チ前ノ馬夫ナリ彼レ即其金ヲ出シテ曰ク小子家ニ

ニ帰り馬ヲ洗ハントシ鞍ヲ解クニアタリ之ヲ得タリ是レ君ノ遺ル、所ナリ故ニ來リテ之ヲ還スト吾驚喜措ク所ヲ知ラズ金十六兩ヲ出シテ之ヲ謝セシモ馬夫受ケバシテ曰ク君ノ物ニシテ君ニ返ル奚ハ謝スルコトアラン然レモ夜ヲ冒シテ來ル故ニ此ノ賃二百文ヲ得ント吾曰ク汝今若シ義心ナカリセバ吾レ生ヲ得ザリシナリ些少ノ金敢テ報ユト云フニハ非ズ聊カ以テ寸心ヲ表スルノミト馬夫愈々辞ス乃チ八兩ヲ減マルモ亦受ケズ漸ク減ジテ纔カニ二分金ニ至ル馬夫執ルコト益々確シ曰ク君我ヲ潤ルヲナカレ予守ル所アリト吾歎ジテ問テ曰ク欲ニ淡キ者今世多く見ズ其ノ義ヲ以テ利ト為ス汝今如何キニ至リテハ則チ絶ヘテ有ルヲナシ所謂守ル所トハ何

蕃山馬夫
行ヲ聞
キ師ヲ得
タル事

アヤト曰ク賤業我が如キモ豈ニ利ヲ思ハザランヤ而レドモ中江藤樹ト云フ者アリ里中ニ教授ス其ノ言ヲ聞クニ曰ク誠正以テ其身ヲ修メ君ニ事フルニ忠ヲ致シ親ニ事フルニ孝ヲ盡シ貧ヲ以テ濫ルナカレ賤ヲ以テ枉ルナカレト今若シ賜フ所ヲ以テ之ヲ利トセバ則チ此ノ心ヲ欺クナリト言ヒテ去レリ

蕃山前ノ物語ヲ聽クコト良ミ久クシテ謂ヘラク馬夫ハ一鄙人ノミ素ト道ノ何物タルヲ知ルニアラズ而シテ其廉潔ナルヲ君子ニ愧ヤザル者ハ必教育ノ致ス所ナラン彼ノ中江藤樹ト云フ者ハ其學徳想フベキナリ今ノ世ニ方リテ此ノ人ヲ捨テ、誰ニカ從ハンヤト即日往テ謁シ業ヲ門ニ受ケンヲ請フ藤樹人ノ師トナルニ足ラバト

テ之ヲ辞セリ蕃山益々請フテ置カズ二夜其廬下ニ寢タリ藤樹ノ母之ヲ見テ藤樹ニ謂ツテ曰ク人遠方ヨリ來リ懇請スルヲ此クノ如シ之ニ習フ所ヲ傳フルモ誰カ好ンデ人ノ師ト爲ルト謂ハンヤト是ニ於テ始メテ接容ス時ニ蕃山年二十四ナリシガ終ニ學識卓絶ノ名儒トナレリ

①善ヲ見テハ則遷り過アレバ則改ム徳ヲ修ルノ事日用ノ功ハ此ヲ切實ト爲スナリ 張履祥

②天下ノ事未ダ積ムニ由テ成ラザルヲ有ラズ家ノ積ム所ノ者善ナレバ則福慶子孫ニ及ブ積ム所不善ナレバ

必餘慶アリ不善

マルセル
貧苦中孤
兒ヲ養育
スル語

則災殃後世ニ流ル易傳
 三佛國ニ「マルセル」ト云フ貧
 人アリ幼兒二人ヲ遺シテ死
 セリ近傍ニ「ロペール」ト云フ
 人アリ一日「ロペール」其妻ニ謀テ曰ク我「マルセル」ノ孤兒

ヲ積ムノ家ニハ必
 餘殃アリ易經

ガ饑餓スルコ見ルニ忍ビズ因テ之ヲ養育セント妻曰ク
 我等貧窶ニシテ三兒ヲ養フスラ常ニ甚ダ勞セリ何ゾ五
 兒ヲ養フコト得ンヤ「ロペール」曰ク我等ノ食餌四分ノ一
 ヲ減ジテ之ヲ養ハント遂ニ之ヲ携ヘ來リ夫婦拮据シテ
 五兒ヲ養育スルニ偏愛アルコトナカリシガ歲月ヲ積ミテ
 二兒既ニ成長シ各工人トナリテ七日毎ニ其工價ヲ「ロペ
 ール」ニ呈シケレバ貧キ「ロペール」ハ暴ニ富饒ノ身トナレ

孫叔敖兩
頭ノ蛇ヲ
殺シテ埋
ムル語

二善ヲ積ンデ身ニ在ルハ猶長日ノ益ヲ加ヘテ人知ラザ
 ルガゴトシ惡ヲ積ンデ身ニ在ルハ猶火ノ膏ヲ銷シテ人
 見ザルガゴトシ前漢書

三昔孫叔敖ト云フ人アリ兒タル片遊歩ヨリ歸リ憂ヘテ
 食セズ母其故ヲ問フニ泣テ對ヘテ曰ク今日兩頭ノ蛇ヲ
 見タリ恐ラクハ死ヲ去ルコ
 日ナラント母曰ク蛇ハ今何
 クニ在ルヤ曰ク兩頭ノ蛇ヲ
 見ルモハ死スト聞キシガ
 故ニ殺シテ之ヲ埋メタリト
 母曰ク憂フルコ勿レ汝ハ死

三君子善ヲ見テハ
 コレニ與カルヲ得
 ガルヲ恐レ不善ヲ

セザリン陰徳アル者ハ天之
 ニ報ユルニ福ヲ以テスト聞
 キ又今汝他人ノ見ントヲ恐
 レテ之ヲ埋ムルハ即陰徳ナ
 リト其後遂ニ高貴ノ人トナ
 レリ

勸善書

見テハ其已ニ及バ
 ニイテ恐ルハナリ

③人ノ善ヲ忌ム勿レ以テ我身ノ則トシテ孽々己マザレ
 バ惡ク其我有ニ非ザルヲ知ランヤ人ノ過ヲ揚グル勿レ
 我身ニ反省シ黙視シテ或ハ是ニ類スルニアラバ亟ニ悔
 イテ速ニ改ムベキナリ 何埋
 ③善人ハ人ノ過ヲ備サニ問ハズ人ノ善ヲ聞テハ我善キ
 事ノ如ク喜ブ人ノ惡ヲ聞テハ我惡キ事ノ如ク思フ 待論

③凡人善アルモ自ラ矜ル可ラズ自ラ矜レバ善日ニ削ラ
 ル不善アラハ自ラ恕ス可ラズ自ラ恕スレバ惡日ニ滋ス
 明太祖

④凡善ハ必積ミテ而シテ後ニ成ル今ノ人少シク善ヲ為
 シテ其効ヲ得ザレバ則善ハ
 無益ト為シテ之ヲ舎テ、修
 メズ薄キノ甚シキモノナリ
 慎思錄

④明ノ揚榮ノ祖父ハ渡ヲ為
 スヲ以テ生業トセリ嘗テ久
 雨水漲リ民居ヲ衝毀シ溺死
 スル者流ニ順ヒテ下ル他舟

④善モ惡モ必小ヲ
 積ミテ大ニ至ル故
 ニ善ハ小ナリトテ
 棄ツ可ラズ惡ハ小

揚氏狀物
 フ拾ハベ
 溺者ヲ救
 フ

皆財物ヲ取ル獨リ揚榮ノ祖
父ハ人ヲ救フヲ以テ事トシ
財物一モ取ル所ナシ郷人其
愚ヲ笑ヒシガ後ニ揚榮位三
公ニ至ル

ナリトテ行フ可ラ
大和俗訓

四 善ヲ行フ人ハ春園ノ草ノ如シ其長ズル所ヲ見ザレハ
日ニ増ス所アリ惡ヲ行フ人ハ刀ヲ磨スル石ノ如シ其損
スルヲ見ザレハ日ニ虧ク所アリ 數語彙

五 一善甚微ナリト雖モ積テ
又積ミ積累シテ止マザレバ
以テ大徳ヲ成スニ足ル 童子問
五 家ニ居テハ陰徳ヲ行フベ

五 西諺曰一俵ノ
麥モ一粒ヨリ成ル

シ心ニ仁ヲ保チ身ニ善ヲ行
ヒテ其善ヲ人ノ知ラントテ
求メザルヲ陰徳ト云フ貪キ
人モ其力ニ應ジテ善ヲ行フ

又曰一滴ノ草露モ
積リテ湖水ヲ成ス

ベシ饑タル者ニ食ヲ與ヘ老イタル者ヲ扶ケ病人ヲ勞ハ
リ人ノ過ヲ誹ラズ人ノ惡ヲ隱シテ顯サズ人ヲ害スル物
ヲ去リ道ニ遺チタルヲ拾ハド其主ニ返ス等常ニ此ノ如
ニシテ陰徳ヲ行フベシ年久シク行ヘバ其善積リテ大ナ
リ 家道訓

六 君子ハ小善爲スニ足ラズ
ト謂テ之ヲ舍テズ小善モ積
メバ大善ト爲ル小不善傷レ

六 一日善ヲ爲セバ
則一日ノ好人トナ

ナシト謂テ之ヲ為サズ小不善モ積メバ大不善ト為ル是故ニ積羽モ舟ヲ沈メ多載ハ軸ヲ折ル故ニ君子ハ微ナルニ戒ム 淮南子

葛藤氏利ヲナスヲサフ事

六 葛藤ハ宋ノ大觀年中ノ人ナリ此人事ノ大小輕重ニ因ラズ日々人ヲ利益セント誓ヒ昨日ハ一事人ヲ利益セリ今日ハ十事利益セリト云フ或怪ミテ其利益スルノ方ヲ問フ葛藤即チ履脱ギノ履ミ物ヲ指シテ曰ク譬ヘバ此履ノ倒マニナリタルヲ人之ヲ

ル日々之ヲ行ヒ久シクシテ休マザレバ則善ヲ積ム一窮リナク其樂ミニモ亦極リナシ 慎思錄

著クルニ便ナラザルベシト思ヘバ正シク直ホシ置ク程ノ事モ亦一ノ利益ナリ事ノ大小輕重ニハ因ラズ然レバ乞巧ト雖モ苟モ其志アラバ人ヲ利益スル能ハザル一ナシ只久シク行フヲ可トス久シケレバ必天地神明ニ通ジテ福ヲ享ル一限リナシト

六 善ヲ為ス者ハ重キヲ負フテ山ニ登ルガ如シ志已ニ確ナリト雖モ力猶及バザルヲ恐ル惡ヲ為ス者ハ駿馬ニ乗ヅテ坂ヲ走ルガ如シ鞭策ヲ加ヘズト雖モ足亦判スル一能ハズ 省心雜言

七 君子ト居レバ則小過ヲ以テ大過ト為ス小人ト居レバ則小善ヲ以テ大善ト為ス 呂祖謙

七 一人ノ見ハ以テ十人ヲ兼スルニ足ラズ我能ク之ヲ十

人ニ取レバ是十人ノ能ヲ兼
ヌルナリ之ヲ取テ己マス百
人千人ニ至ラバ我ニ在ル者
豈量ル可ケンヤ許衡

⑦子弟ノ輩放蕩無頼ノ者ト
往來スルハ彼ガ爲ノニ倡
誘セラレ非辟ニ陥ラザル者
鮮シ故ニ小人ニ近ヅクハ
其禍量ル可ラズ慎思錄

⑦三浦梅園ハ豊後ノ人ナリ
自ラ奉ズル節儉ナリ孝子順
孫節婦義僕アレバ梅園稱揚シ

梅園人ノ
善ヲ裁メ
善ヲ褒ス
ル事

テ之ヲ顯シ或ハ之ヲ官ニ請ヒ褒賜ヲ得セシメ或ハ之ヲ
郷里ニ慕リ以テ救ヲ爲シ又自ラ米塩ヲ飽ク日日月相給
スル者アリ其間闕ノ子弟ニ於ケル小善アレバ之ヲ褒ス
小惡アレバ之ヲ誡ム是ヲ以テ人皆其嚴ヲ憚カリ其惠ニ
懐ツク
⑦子弟寧口終歳書ヲ讀マザルハキモ一日小人ニ近ヅク
可ラズ劉元城

第四 仁恕

①人高顯ニ居レバ卑下ノ艱
難ヲ思ヒ飽暖ニ居レハ饑寒

①人ニ交ハルニ恕

⑦衆君子ノ間ニ立
テバ見ル所聞ク所
皆善ナリ衆小人ノ
間ニ立テバ見ル所
聞ク所皆不善ナリ

呂祖謙

ノ困阨ヲ思ヒ安逸ニ居レバ
勞瘁ノ當ニ休スベキヲ思ヒ
明哲ニ居レバ愚暗ノ怨スヘ
キヲ思フ 徐養齋

① 鰥寡孤獨ノ四ツノ者ハ窮
シテ告グルナキノ人ナリ尋

常饑寒ノ者ニ比スレバ更ニ矜レムベシ故ニ仁ヲ施ヌハ
必斯ノ四ツノ者ヲ先キニス 習是論

① 佛蘭西ノ某市街ニ一ノ寡婦アリテ子五人ヲ育テ家甚
ダ貧迫ニシテ朝夕ヲモ保持スル能ハズ常ニ市街ニ出デ
行々菜實ヲ賣リ以テ僅ニ一家ノ口ヲ糊スルヲ得タリ會
富家ノ婦人之ヲ憐ミ資ヲ與ヘテ一小店ヲ設ケシメタリ

寡婦貧婦
ノ為メ業
ヲ休ムル
話

此ヨリ稍ク活計ノ道ヲ得タレト尚行賣故ノ如クセリ一
日貧婦ノ襪襪ヲ纏ヒ菜物ヲ賣リ行クアルニ遇フ貧婦ハ
人ノ其菜物ヲ買フ者鮮ナキヲ嗟ケリ寡婦之ヲ聞キ翌日
ヨリシテ行賣スルコトヲ罷ム人怪ミテ其故ヲ問フ寡婦
答テ曰フ吾昨日街頭ニ樓檻ノ婦人ニ遇フ彼レ其菜物ヲ
買フ人ナキヲ嗟ス是畢竟吾ヲ併セテ兩人ナル故ナリ吾
ハ貧シト雖モ幸ニ今此店ヲ保ツテ得タレバ彼ノ婦人
ノ利ヲ割グエトヲ欲セザルナリ

② 天地ノ間貴フベキ者ハ仁心仁愛ナリ須臾モ此ノ心ヲ
失フ可ラズ此ノ心ヲ存スルヲ人道トシ此ノ心ヲ失フヲ
虎狼トス 括庵漫筆後篇

③ 廣瀬才二家甚ダ貧ニシテ火ヲ攀ゲザルテ數々ナリ嘗

ヲ以テスベシ怨ト
ハ已ヲ推シテ人ニ
及ボスナリ 大和俗訓

梅道人ノ画ヲ見テ甚之ヲ

欲ス乃百方ニシテ之ヲ買ヒ
 以テ伊藤東涯ニ示ス東涯嘆
 賞シテ舍カズ才ニ因テ推シ
 テ之ヲ與フ或其故ヲ問フ才
 ニ曰ク夫レ得ント欲スルノ
 心アルハ人我一ナリ
 ③人トシテナサケヲ知ラズ
 バ木石ニ同シ何事モ人ノ上
 ヲ思ヒ計リテ我身一ツヲ先
 キツツベカラズ六論行義天
 ③人ノ小過ヲ責メズ人ノ陰

②西諺ニ曰大木ハ

菓ヨリモ蔭ヲ尊ブ

③吾好ムハ必人

モ好メリ吾嫌フハ

必人モ嫌ヘリ

故ニ吾心ヲ以テ人

私ヲ發カズ人ノ舊惡ヲ念ハ

ズニツノ者ハ惟以テ徳ヲ養
 フノミナラズ亦以テ害ヲ遠
 ガクベキナリ蓮生ハ賤
 ③其懲リタルモノヲ以テ人
 ニ誠ノ其己ニ獲タルモノヲ
 以テ人ト共ニスルハ豈忠ニ
 アラズヤ官裁長
 ③英國ノ豪族ジョーンボワ
 ーハ自ラ刻苦勉精シテ他人ノ困難ヲ濟フヲ以テ事ト
 セン人ナリ曾テリスホンニ航セシガ是時英佛隙アルヲ
 以テホワード忽チ佛人ノ手ニ捕ハレフレストノ獄ニ繫

ノ心ヲ推シ量リ吾

嫌フハ人ニ施ス

可ラズ吾好ムハ

人ニ施スベシ

六、和信訓

カレ同行ノ者ト共ニ數日石床ノ上ニ起臥シ食物足ラハ
 シテ幾ト饑餓ニ及ベリ此艱苦ニ逢テ大ニ感發シ中心慈
 悲ヲ爲サント欲シ赦ニ逢テ英國ニ歸リシガ孟子ニ政府
 ニ詣リ彼ノ苛烈ノ件々ヲ述ベテ佛ノ政府ト議シ五ニ因
 虜ヲ寛容ニ接待センテヲ乞ヒシニ遂ニ其志ヲ容サレタ
 リ

③人ノ得意ノ事アルヲ見テハ便チ當ニ忻喜ノ心ヲ生ズ
 ベシ人ノ失意ノ事アルヲ見テハ便チ當ニ憐憫ノ意ヲ生
 スベシ 庵日纂

④人ノ常情多ク己ガ能ニ矜
 多ク人ノ過ヲ言フ君子ハ
 然ラズ人ノ善ヲ揚ゲテ己ガ

④人ヲ責ムルノ心
 ヲ以テ己ヲ責ムレ

善ニ矜ラズ人ノ過ヲ怒シテ
 己ガ過ヲ怒セズ 明太祖

④我身ヲ尤メテ人ヲ怒ミヤ
 レバ物ニ逆ラハズシテ我氣
 常ニ快シ我ヲユルシテ人ヲ
 尤メ怒ムル時ハ心ノ憂ヘ苦
 シミ己ム時ナシ 秘事記

バ則過寡シ己ヲ怒
 スルノ心ヲ以テ人
 ヲ怒スレバ則交ハ
 リヲ全クス 省心錄

④秦ノ繆公善馬ヲ岐下ニ亡
 ナフ野人共ニ得テ之ヲ食フ吏逐テ三百人ヲ得タリ之ヲ
 法ニ處セントス繆公曰ク君子ハ畜産ヲ以テ人ヲ害セズ
 吾聞ク馬ヲ食フテ酒ヲ飲マサレバ人ヲ傷フト酒ヲ賜テ
 之ヲ赦ス後繆公晋ト戦ヒ晋軍ノ爲メニ圍マル馬ヲ食フ

繆公畜産
 ノ爲メニ
 人ヲ害セ
 ザル

者三百人馳セテ晋ノ軍ヲ肩シ鋒ヲ推シ死ヲ争ヒ以テ其
恩ニ報ズ晋爲メニ圍ヲ解キ繆公難ヲ脱スルヲ得タリ

五 小人ノ我ニ對シテ憚事ヲ
言ヒ行ヒテ論シ難キハスベ
キ様ナシ若シ小人ニタテア
ヒテ我顔色ト言語ヲ烈シク
シ怒リ争ヒテ其是非ヲ言ヒ
聞カセテモ彼元ヨリ賢コカ
ラザレバ聞キ分ケズ反テ彌
々怒リ争フ斯ノ如ク彼ト怒
リ争ヘバ我モ亦小人ナリ
大和俗訓

五 人ノ惡シキヲバ
宥シテ堪忍シ我身
ニハ道ヲ盡シテ人
ニ堪忍セラル、行
ヒヲ爲スベカラズ

五 區々トシテ人ト是非ヲ較
アルハ其量較アル所ノ人ト相去ル一幾何ゾヤ

家道訓

六 世ニ處スルニ意ニ乖違スル一有リ豈ニ人ニ在ル者皆
非ニシテ己ニ在ル者皆是ナランヤ此ヲ以テ心ヲ存セバ
則惟己ヲ盡シテ必シモ人ヲ咎メズ
業平岩
六 聖人ヲ以テ我身ヲ正スベシ聖人ヲ以テ人ヲ正スベカ
カラズ凡人ヲ以テ人ヲ怒スベシ凡人ヲ以テ我身ヲ怒ス
ベカラズ
大和俗訓

六 我國古來ノ俗佛教ヲ奉ズ
ル者ハ其祖考ノ忌日ニ逢フ
毎トニ魚肉ヲ去リテ蔬菜ヲ
食フノミ徳川吉宗常ニ魚ヲ

六 己ヲ責ムルハ厚
キヲ要ス人ヲ責ム

吉宗
照夫
ノ罪ヲ宥
免スル事

ルハ薄キヲ要ス

續小兒語

者ハ食スル毎トニ之ヲ盡ス
 膳夫依田政次嘗テ其忌日ヲ
 忘レ例ノ如ク之ヲ進ム吉宗
 膳夫ノ罪ヲ得ンテテ慮リ纒カニ之ヲ食フガ如クニシ而
 シテ徹ス既ニシテ政次之ヲ悟リ大ニ懼ル趨テ閣老ニ告
 ゲテ罪ヲ乞フ閣老入テ白ス吉宗曰ク膳夫固ニ罪アリ然
 リト雖モ寡人自ラ遺失スル罪亦甚ダシト閣老敢テ復々
 言ハズ頓首シテ退ク政次因テ免ル、
 一ヲ得タリ是ニ於
 テ終身其徳ヲ忘レズ吉宗薨ズルノ後忌日毎トニ必其廟
 ニ謁ス風雨寒暑ト雖モ未ダ曾テ一日ヲ懈ラザリシト云
 フ

七 田邊晋齋曾テ一友人ノ家ニ詣ル夜深テ返ラントスル

晋齋僕ノ
 若ヲ見テ
 夜行ヲ止
 △ル事

時從僕門ニ立チ寒ニ堪ヘザル狀ヲ見ル勞シテ曰ク我人
 ノ許ニ適キ亦自ラ安飽ス汝等持リ此ノ苦寒ニ至ル實ニ
 余ガ過チナリト是ヨリ公事
 ニ非ラザレバ夜行セズ
 七 貪賤ナル人モ仁ニ志シテ
 行ヘバ其身ニ應ジ日々ニ人
 ニ利益アル事多シ錢エタル
 者ニ一飯ヲ與ヘ渴ケル者ニ
 湯水ヲ與ヘ道路ノ荊棘ヲ除
 キ小溝ニ小橋ヲ架スル等ノ
 事ハ如何ナル貧窮ナル人モ
 爲シ得ベキ事ナリ是亦人ニ

七 人ノ爲メニ事ヲ

謀ルハ必己カ爲メ

ニ事ヲ謀ルガ如ク

之ヲ慮ルヤ審ニス

ベシ 願體集

益アル善行ナリ 初學訓

新右衛門 送人ヲ送ル語

七東京淺草ニ住メル老人アリ妻ト共ニ府内ノ八十八ヶ所ノ大師ヲ巡拜セント堀ノ内ノ近邊ニテ日晚レ且闇夜ニシテ行クベキ道ニ迷ヒ宿ルベキ屋ヲ尋子彷徨セヌニ其處ヲ通行スル一婦人アリ此ノ状態ヲ見テ我ト共ニ來ルベシ夫ニ言テ案内セシムベシト曰フ老人等其言ニ從ヒ婦人ノ跡ニ付テ下鷲ノ宮村ト言フ所ニ至ルニ婦ノ夫ハ大工職ノ新右衛門ト云フ者ナリ妻ノ言ヲ聞キ老人等ヲ堀ノ内マデ一里余ノ道ヲ拉ヒ行キ善ク道ヲ教ヘテ立ントスルヲ老人夫婦痛ク厚意ヲ感シ懐中ヨリ金子ヲ出シテ謝シケルニ固辭シテ言ヒケルハ知ラザル地ニテ道ニ迷フハ甚困難ナルモノナリ我等先年河崎ノ大師ニ賽

セシ歸路田間ノ細徑ヲ踏ミ誤リ先途ノ行クベキヲ知ラズ大ニ艱苦ヲ為シタル折柄一人ノ老翁アリ夜中ヲ厭ハズ我等ヲオクレリ喜悦今尚忘ルレ能ハズ故ニ之ヲ為スモノナリト言フテ去レリ

第五 勤儉

一勤儉ノニツハ家ヲ治ムル要道ナリ此ノニツノ道行ハルレバ貧窮ニ至ラス取用乏シカラズ 家道訓
一節儉ヲ守リ身ヲ慎ミ風俗ヲ乱ルレ勿レ宮室ヲ飾リ衣

一富足ハ儉約ヨリ生ジ貧困ハ奢侈ヨリ起ル 初學知要

家康弁衣
ヲ服シテ
節儉スル
語

一 徳川家康常ニ澣衣ヲ服ス或時夫人家康ニ言テ曰ク公
 常ニ澣濯ノ白衣ヲ服セラル賤婢ヲシテ澣ハシムルハ懼
 アリ侍女ヲシテ濯ハシムレバ柔荑ノ手指血流ルニ至
 リ太ダ難色アリ澣衣ヲ服セザルモ可ナラズヤト公之ヲ
 聞テ曰ク婦女ノ理ヲ解セザル之ヲ言フモ益ナカルベシ
 ト雖モ諦カニ我言ヲ聽ケ郷等ハ駿府ノ倉庫ノミヲ視テ
 モ其多キニ駭クベシ京都大坂其他ノ地方ニ於ケルモ亦
 倉庫アリ布帛ハ山積ス故ニ日ニ百匹ヲ服シタリトモ其
 足ラザルヲ憂ヘズ然リト雖モ子孫萬世ノ爲メ天下衆庶
 ノ爲メヲ思フガ故ニ常ニ澣衣ヲ服スルナリ何トナレバ

玉津遺筆

節儉異常
ノ服ヲ衣
ハル事

天道ハ奢侈ヲ惡ムモノナレ
 バナリ
 二 司馬溫公嘗テ深衣ヲ作り
 邵康節ニ謂テ曰ク先生此ヲ
 衣ルベキヤト康節曰ク雍ハ
 今人タリ當ニ今時ノ衣ヲ服
 スベキノミト溫公其德音ヲ
 嘆ク伊藤仁齋恒ニ此ヲ譽ゲ
 テ談柄ト爲シ世ノ奇ヲ好ム
 者ヲ戒ム

二 西諺ニ曰ク利子ヲ取ランヨリハ利子ヲ拂フナ
 二 大ニ富ナル人モ財ヲ用フル道ヲ知ラザレバ後ハ必貧

二 節儉ノ要道ハ小
 小ノ利ニ意ヲ注ガ
 ンヨリハ小々ノ費
 ヲ省クニ若カズ
 ベイコン

窮ニ苦シム薄祿ノ家モ財ヲ用フルニ道アレバ貧苦ナシ

家道訓

③名門右族ヲ見ルニ祖先ノ忠孝勤儉ニ由テ以テ之ヲ成
立セザルハ莫シ抑此

③家業ハ先祖碎身ノ功績ト陰徳トノ餘慶ナリ親能ク守
リ得テ我ニ讓レリ我能ク守リテ子ニ讓ルハ孝ナリ

民家産蒙解

③綾部道弘ハ元禄年間某侯ニ筮仕セリ剛直ニシテ篤行

綾部道弘
徳素ヲ以
テ子孫ヲ
養ハル事

ノ士ナリ幼時家貧ニシテ學
資ノ給スヘキナシ艱苦困頓

東西ニ漂泊シテ毫モ其志ヲ
屈セズ遂ニ儒典ニ通シ傍ヲ

③其家儉ナレバ則

福慶子孫流ル奢

医術ニ達セリ人ト為リ親黨
故舊ニ厚ク紛ヲ解キ難ヲ極

ヒ其勞ヲ辞セズ長官ニ對ス
ル直言シテ忌憚スル所ナシ

人始メ其嚴ヲ憚リ久クシテ
後キ其恩ヲ信ジ里閭相告ゲ

テ吾黨ノ君子人ト稱シ尊ベリト云フ道弘自ラ奉マル儉

素ニシテ華飾ヲ喜ハズ偶々人アリ其子ニ彩飾ノ衣ヲ遺

クル之ヲ服スルヲ許サズシテ曰ク先君貧素ニシテ世

ヲ然フ我常ニ孝養ノ意ニ任セザルヲ憾ム吾モ亦辛勤多
年幸ニ奉資ヲ享ケテ兒女ヲ養フト雖モ豈ニ其本ヲ忘レ
テ可ナランヤ況ヤ人情儉ヨリ奢ニ入ルハ易ク奢ヨリ儉

レバ則凶禍後嗣ニ
傳ハル慎マザル可
ケンヤ 童子訓

ニ復スルハ難シ吾レ我ガ兒女ヲ愛セザルニハ非ズ奢侈ニ習ハシメザラン一ヲ思フノミト又其子ニ教ユルニ四書小學及ビ古人ノ詩ヲ以テシ絶テ聲伎博局ノ事ヲ知ラシメザリシト云フ

④ 儉約ノ益ハ一端ニ止マルニ非ズ大允貪滯ノ過ハ未ダ奢侈ヨリ生ゼザルハアラズ儉ナレバ則貪ラズ滯セズ是ヲ以テ徳ヲ養フベキナリ奢レバ則妄リニ取り苟モ求メテ志氣卑辱トナル一タビ儉約ニ從ヘバ則人ニ於テ求ムル一無ク己ニ於テ愧ヅル一ナシ是以テ氣ヲ養フベキナリ

④ 人各志ヲ高ブラ
ガシテ我ニ當リタ
ル職分ヲ務メバ自

リ 羅 畢 倫

④ 人其分限ヲ守リ規矩ノ外ニ出デザラン一ヲ欲セバ常ニ金錢出入簿ヲ眼中ニ存シ家務ヲ經紀スベシ是最良ノ法ナリ

ラ我ニ當リタル衣
食アリテ一生安穩
ニシテ暮スベシ

六 論 行 義 大 意

新左衛門
大黒天ノ
笑談ヲ論
スル也

④ 曾呂利新左衛門談言微中善ク人ノ願ヲ解ク東照公家康ノ館ニ候シ問話ノ餘家康ニ啓シテ曰ク世ニ大黒天ヲ以テ神トナシ祭レバ其奥義ヲ知ル者鮮シ抑モ大黒天ノ貌タル豊頬ニシテ織目其眉宇ヲ高クシテ黒帽ヲ頭ニ戴クモノハ其上ヲ見ルノ心ナキヲ表セルナリ人ニシテ上ヲ見ザレバ驕慢ノ心自ラ消

シテ人々能ク其分ニ安ンズ百福ヲ致ス所以ナリト家康
戰然トシテ之ヲ頷シテ曰ク然リ我モ亦五字ノ訣アリ曰
ク宇邊速美奈又七字ノ訣アリ曰ク身能保土遠志禮蓋シ
皆此ノ意ノミト

⑤財祿ハ限アリ私慾ハ限ナ
シ限アル財ヲ以テ限ナギ慾
ニ任セテハ必財竭キテ困窮
ス 家道訓

⑤財ヲ用フルノ法ハ得ル所
ノ財ノ分量ヨリ寡ク用フル
ハ善シ得ル所ヨリ過ギテ多
クレバ則不足シテ困窮トナ

⑤天地生ズル所ノ
財物ハ固ヨリ以テ
人ノ用ニ供スルナ
リ然レモ必節シテ

ル戒ムベシ是ヲ入ルヲ量テ
出スヲ為スト云フ 同上

⑤凡人ノ用度足ラザルハ率
赤心ノ侈ルニ因ル心侈レバ

妄ニ費サズ愛惜セ
ヨ 胡師蕪

則非分ニシテ以テ入り旋タ非分ニシテ以テ出ヅ貪ナレ
バ固ヨリ足ラズ富メルモ亦足ラス 長履祥

⑥仁正寺ノ領主市橋長璉ノ後室ハ廉介ニシテ節儉ヲ守
リ施惠ヲ好メリ單寡ニシテ倚ルナキ者ニ遭フ所ハ所有

ヲ捐テ、以テ之ヲ賙ハスニ至ル孀居十七年儉素愈々堅
シ其居ル所頗ル瘠陋ナリ世子長照改メ作ラン、ヲ請フ
後室可カズンテ曰ク美室華屋ハ未亡人ノ宜キ所ニ非ズ
且吾レ久シク之ニ安ンズ其陋タルヲ知ラザルナリ

長璉ノ後
室孀居ヲ
甘ンズル
語

六 錙銖ヲ惜ムハ織蓄ニ似タルモ之ヲ久シクスレバ覺エズシテ日ニ益ス毫毛ヲ捐スレバ損ナキニ似タルモ之ヲ久シクスレバ覺エズシテ日ニ消ス何垣

光國侍女
ニ抄紙ノ
無ヲ觀セ
シトル語

七 水戸侯光國深ク紙ヲ愛シミ書翰ノ封套ハ長短ヲ問ハズ之ヲ接ギテ詩歌ノ草稿ヲ起スノ用ニ供シ座上ニ水ヲ滴ラス等ノ事アレバ之ヲ拭フニ紙ヲ用ヒズ必布片ヲ用ヒタリ又恒ニ女監等ヲ戒ノ妄リニ紙ヲ費サハラシム然レモ猶ホ紙ヲ費ス一多カリシカバ一日女輩ニ語テ曰ク

六 朝食ヲ奢侈ト共ニスレバ午餐餐ハ貧乏ト共ニシ夜餐ハ汚名ト共ニス 西語

抄紙ハ觀ヲ取ルベキモノナリ往テ觀ヨト乃チ脂粉一隊松草村ニ赴キ抄紙場ヲ觀ル川上ニ省棚ヲ架シ坐スル所簀上ニ涼簟一片ヲ藉クノミ此日北風栗烈寒威膚ニ迫ル紙ヲ抄スル男女ハ赤脚ニシテ水中ニ俯仰ス女服大ニ驚キ且其寒ニ耐ヘズ歸テ後チ抄紙ノ難苦ヲ説ク光國曰ク紙ヲ製スルノ業此ノ如クソレ易スカラザルナリ故ニ妄リニ費スベキニアラザルナリト爾後後房ノ内又多ク紙ヲ費ス者無キニ至レリ

七 夫一人儉ヲ知レハ則一家富ム王者儉ヲ知レバ則天下富ム蓋シ奢ル者ハ三歳ノ計一歳ニ之ヲ用フ奢ル者ハ富

七 一粥一飯モ當ニ來處ノ易カラザル

モ足ラス儉ナル者ハ貪シキ
モ餘アリ奢ル者ハ心常ニ貪
シク儉ナルモノハ心常ニ富
ム 諱子

仁德帝臺
ニ登リ炊
煙ヲ望ミ
玉ヲ語

仁德天皇即位ノ初高臺ニ
登リ玉ヒ人家ヲ望ミ炊煙ノ
起ルヲ多カラザルヲ見テ人

一ヲ思フベシ半絲
半縷モ恒ニ物カノ
維難キヲ思フベシ

治家格言

民ノ貧困ナルヲ知り玉ヒ乃十年租ヲ免シテ貧民ヲ恤ミ
玉ヲ宮室門牆破壞スト雖モコレヲ修理シ玉ハ必三年ヲ
經テ百姓殷富ナリ帝復ク臺ニ登リ玉ヒ家々炊煙多ク起
ルヲ望ミ玉ヒ欣然トシテ皇后ニ謂テ曰ク朕既ニ富メリ
ト皇后ノ曰ク今宮室頽敗風雨ヲ禦ガズ何ゾ富メリト謂

フヤト帝ノ曰ク民ノ富ハ朕ノ富ナリト是ニ於テ群臣百
姓交々宮室ヲ修メント請ヘ臣許サズ又三年ヲ經テ始テ
之ヲ許シ玉ヘリ

八 怪ト儉トハ大ナル別アリ理ニ當リタル之ヲ儉ト謂ヒ
財ヲ吝ム之ヲ怪ト謂フ 人生必
請者

八 吝嗇ナレバ禮義ヲ輕ンジ
貨財ヲ重ンジ且親ニ奉ズル
一菲薄ニ下ヲ使フ一慘刻ナ

シテ財ヲ惜ミ禮義
ヲ欽ギ仁愛ヲ施サ

イルハ是吝嗇ナリ

リ人ノ窮ヲ見テモ賑ハス
能ハズ人ノ恩ヲ受ケテモ報
ヲナサズ積メ而モ散ズル
能ハズ滿テ而モ施ス一ヲ

知ラズ所謂守錢虜ナルノミ

初學知要

不徳ナリ

家道訓

九 君子ノ其財ヲ素テ、貧窮ヲ救フ者ハ其財ヲ愛マザルニ非ズ其財ヲ愛ムト甚シクシテ之ヲ徳義ニ用ヒント欲スルナリ 慎思録

左内儉ヲ務メ施ヲ好ム語

九 岡野左内ハ上杉氏ノ臣ナリ景勝ニ仕フ景勝封ヲ米澤ニ移スニ及ビ去テ蒲生秀行ニ仕フ食禄一万石アリ左内常ニ貨殖ニ志シ家巨萬ノ富ヲ致ス而シテ大小判及ヒ他ノ碎粒金銀ヲ一室内ニ排列シ以テ娛樂ト爲スト毎月必

九 古人ノ儉ヲ務ムル者ハ其施サンガ爲メナリ儉ニシテ

不二三次ニ及ブ人聞テ之ヲ賤シム偶々鄰閭相聞フ者アリ人アリ來テ報ズ左内恰モ室内ニ在リ黄白ヲ辨當スルニ暇アラズ直チニ往テ之ヲ和解シ翌日ニ至リテ返ル黄

施スヲ知ラザレバ儉トハ謂フ可ラズ 童子訓

白猶ホ室中ニ狼籍タリ衆始メテ其大度ナルニ服ス是ヨリ先キ關ヶ原ノ役アル左内永樂錢一萬貫ヲ景勝ニ獻ジテ曰ク敢テ軍需ヲ資クルニハ非ズ聊カ以テ將士ノ勞ニ酬イント馬奴アリ黄金一枚ヲ珍藏ス左内大ニ之ヲ奇トシテ曰ク人ノ心ヲ用エル當ニ此ノ如クナルベシト之ヲ賞スルニ千金ヲ以テス仕ヘテ忠郷ノ時ニ至ル其病革カ

ナルヤ金三萬兩ヲ忠郷ニ獻ジ三千金ヲ以テ其弟忠知ニ
獻ジテ曰ク以テ平素ノ恩ニ報ズト亦五金十金ヨリ以テ
百金ニ至ルマデ諸友ニ遺贈スル各等差アリ而シテ舊券
ハ其櫃ト、モニ之ヲ燒ケリ

⑨ 儉ハ君子ノ徳ナリ世俗ノ儉ヲ以テ鄙ト為スハ遠識非
サレバナリ儉ナレバ則財用足ル儉ナレバ則求ヲ寡クス
儉ナレバ則以テ家ヲ成スベシ儉ナレバ則以テ身ヲ立ツ
ベシ儉ナレバ則業ヲ子孫ニ傳フベシ 倪思

第六 愛日

① 人生最モ日ヲ愛ムベキノ
時アリ幼弱ノ時ハ記臆ト精

① 人一生ニ享クル

カト俱ニ盛ナリ故ニ傳聞強
記ノ功成リ易シ一タビ記誦
スレバ終身忘レズ此ノ時精
勵セバ則一日ノ功以テ十日
ニ當ル可シ此學者當ニ日ヲ
愛ムベキノ時ナリ 慎思錄
① 能ク其身ヲ愛スル者ハ一
生ヲ以テ萬歳ノ業ヲ為シ一
日ニシテ數百年ノ休ヲ遺コ
ス 畜徳錄
① 人生小幼ナル時ハ精神專
利ナリ長成已後ハ思慮散逸

所ノ光陰幾バクゾ
ヒカゲ
ヤ之ヲ愛惜スルヲ
知ラズ浪リニ費セ
バ終ニ禽獸ト異ナ
ルト無シ
造物ノ人ニ賦スル

ス固トニ須ク早ク教ヘテ機ヲ失フ_一勿ルベシ類子象朝

①發シテ而シテ後禁スレバ扞格シテ勝ヘズ時過ギテ然シテ後學ヘバ勤勞シテ成リ難シ礼記

②學者ノ學ヲ講シ業ヲ勤ル皆時日ノカヲ以テス故ニ志士ハ日ノ短キヲ惜ム慎思錄

③聖入ハ尺璧ヲ貴バズシテ尺寸ノ陰ヲ貴フ淮南子

④餘アルヲ以テ人ヲ救ハハ必入ヲ濟フノ日ナカラン暇

所豈徒ニ五體ヲ具ヘテ天地ノ間ニ喘息シ蟲蟻ト並活セシムル而已ナラン

陳獻章

祖徠光陰
ヲ變ミ勉
學スル語

アルヲ待テ書ヲ讀マバ終ニ書ヲ讀ムノ時ナカラン神珣

③莸生祖徠幼ニシテ大志アリ家甚ダ貧ナリ其書ヲ讀ム暮ニ向ヘバ則出デ、簷際ニ就ク簷際字ヲ辨ズベカラザレバ則チ入りテ齋中ノ燈火ニ對ス故ニ晨ヨリ深夜ニ及ブマデ手ニ卷ヲ釋ナツノ時ナシ其平生分陰ヲ惜ムモノ概子此類ナリ祖徠人ト爲リ英氣豪邁眼一生ヲ空クシ推ス所アル罕ナリ而レモ其後進ニ於ケルヤ苟モ一長ヲ擅ニスレバ齒牙ヲ惜マズ噴々掄揚ヲナス是ニ因テ弟子大ニ進ミ聲蹄藉甚海内ヲ震撼ス一時ノ貴介公子藩國名士

②人生百歳ニ滿タズ豈放蕩シテ日ヲ曠ラシ空クスノ生

小學修身錄

卷之十

三十四

星洲館

官

1201

ヨリ以テ間卷ノ處士ニ及ビ
緇徒ニ至ルマテ翕然風靡影
從シテ惟々後レントテ恐レ
一時ノ褒貶ニ藉テ以テ其業

ヲ過ゴストテ惜マ
ザル可ケンヤ 慎思
録

ヲ華裘スト云フ服部南郭或歳ノ元日ニ徂徠ヲ訪フ徂徠
方サニ凡ニ隱リテ兵書ヲ閱ス新年ヲ知ラザル者ノ如シ
乃チ疊々トシテ兵ヲ設ジテ置カズ南郭竟ニ新禧ヲ賀ス
ルヲ得マシテ去レリ

②大抵家務冗幹既ニ多シ此己ム可ラザルモノナリ若其
餘時ニ於テ又急ナラザルノ雜務ヲ以テ虚シテ光陰ヲ費
サバ則是終ニ書ヲ讀ムノ時ナカラン 朱子
小學修身鑑補卷十終

明治二十年二月八日版權免許

同 年九月 刻成

定價金十二錢

福岡縣士族

編輯人

吉田利行

福岡縣福岡區福岡
濱ノ町二十二番地

同縣平民

出版人

右田喜久郎

同縣同區博多掛町
十一番地

[REDACTED]